

事業の概況

組合の取り組み

令和元年度はJ A宮城県大会決議に基づき、J Aの存在価値、信頼を高め組合員・農業・地域への貢献を確実に実践するとともに、地域農業の振興を基本に「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現のためJ A一丸となって取り組んできました。特に、第六次中期経営計画の最終年であることから各部門における重点実施事項の達成に向け取り組んできました。

自己改革につきましては、J Aの教育文化活動を通して、地域の方々にJ Aを理解してもらう活動と組合員・地域住民を繋ぐ協同活動に取り組んできました。

主な事業活動と成果については、以下のとおりです。

営農経済部門

〈米穀部門〉

生産者手取増大に向けた買取集荷の拡大や労力軽減、低コスト稲作の普及推進に取り組ましました。令和元年産米の生産については、6月から7月中旬までの低温長雨が心配されましたが、その後高温となり作況指数100の平年並みに回復しました。しかしながら、集荷数量は23万9千俵（前年対比97.1%）、上位等級率80.2%となり、前年を下回る実績となりました。販売では前年並みの米価を維持し、販売高は40億2百万円（前年対比113.4%）となり、前年を上回る実績となりました。

〈園芸部門〉

園芸重点作物を中心とした作付推進及び販売強化を図り、販売計画に沿った実績確保に取り組ましました。特に機械化一貫作業体系による園芸作付け拡大策については、玉ねぎ・長ねぎを中心に作付面積が拡大しました。蔵王梨輸出については香港へ4トン（前年比1.7トン増）の輸出実績となりました。園芸作物の生産・販売状況は、春の雨不足、夏の酷暑、令和元年東日本台風の影響により生産数量が減少し販売高は12億53百万円（前年対比87.2%）と前年を下回る実績となりました。

〈畜産部門〉

仔牛、肉牛とも高値安定の市況価格に支えられたことに加え、畜産クラスター事業を活用し経営の安定を進めた結果、順調に事業実績が推移してきました。令和元年東日本台風では施設冠水・稲わら流失等甚大な被害を受け、代替粗飼料（フェスクストロー）供給により畜産経営の早期復旧に努めました。また、令和2年に入り新型コロナウイルスによる需要減退によって肉牛・仔牛価格が下落し、販売高36億76百万円（前年対比99.1%）と前年を下回る実績となりました。

〈生産資材部門〉

生産資材部門では、先割予約購買の導入や大型規格農薬の普及推進により生産資材価格の引き下げと生産資材コスト削減を図りました。また、物流センターの配送コスト削減と安定した供給体制を確保するため、新たな物流体制で稼働することができました。

〈農業機械部門〉

農業機械部門では、農業機械維持管理の負託にこたえる事業展開と価格の低減、省力化支援

に取り組みました。また、令和元年東日本台風被害による被災機械の支援事業に取り組み、被災された生産者の復興支援に努めました。

金融共済部門

〈信用事業〉

地域の金融機関として便利に取引できるインターネットを活用した商品の提供や貯金奨励品に管内農産物を取り入れたキャンペーンを展開し組合員・利用者の満足度向上に努めました。

また、令和元年東日本台風による災害に迅速に対応し、被害を受けた組合員、利用者に対し生活、農業経営維持のための資金を創設し、農業・生活のメインバンク事業を展開しました。

〈共済事業〉

3Q訪問活動による全戸訪問を実施しながら「ひと・いえ・くるま」の総合保障に向けた推進活動を展開し、組合員・利用者の保障の拡充と総合保障を通じた「安心」と「満足」の提供に取り組みました。また、令和元年東日本台風被害に見舞われた家屋等の損害調査・共済金支払等において迅速かつ効率的な契約者対応に努めました。

管理部門

〈協同活動〉

各地区に設置した地域活性化委員会を基軸に、地域の特色を生かした四季折々の交流イベントや清掃作業、ボランティア活動等を実施し、JAと組合員・地域住民が一体となった活動を通じて魅力ある地域社会づくりに取り組んできました。また、地域の女性の声をJA運動に反映させる取り組みとして開催している女性座談会「虹色テラス」には、延べ350名の方が参加したほか、「女性大学カレッジ輝楽里」においては、管内の若手女性生産者と連携し子育て世代を対象にした親子参加型イベントを実施、さらに女性大学卒業生を対象にした特別講座を開講し、JAのファンづくり運動に力を入れてきました。このほか、地域の小学生を対象にした「子ども防災スクール」を開催し、万一来た防災に関する知識などを呼びかけました。

〈組織活動〉

JA青年部・女性部合同の「あぐりキッズ農業体験活動かべ新聞コンクール」を開催し、次世代への食農教育と地産地消の重要性を訴えました。JA青年部においては、宮城県手作り看板コンクール看板部門で川崎地区が最優秀賞、柴田地区が優秀賞を受賞したほか、令和元年度東北・北海道地区JA青年大会の組織活動の部において柴田地区青年部（発表者：齋藤尚）が優秀賞を受賞。JA女性部においては、宮城県家の光大会記事活用体験発表の部で角田地区の佐藤一子さんが最優秀賞に輝き、宮城県代表として全国家の光大会に出場。当JAから2年連続で全国大会に出場するなど、組織活動において各方面から高い評価を受けました。

令和元年度事業活動の成果については、組合員の皆様がJA事業を積極的に利用していただいた結果であり、事業利益は1億29百万円、当期剰余金は1億14百万円を計上することができました。

これもひとえに組合員の皆様のJA活動に対するご理解とご協力の賜ものであり深く感謝申し上げます。ここに令和元年度の事業概況を報告いたします。

J A 自己改革の取り組み

第六次中期経営計画[第六次営農Vプラン]

取り組み状況 (取組期間：平成 29 年度～令和元年度)

1. 地域農業の振興と農業所得の増大

●加工・業務用たまねぎ産地づくり 機械化一貫体系へ

たまねぎを重点品目に掲げ作付けを推進。加工・業務用たまねぎの産地化を目指しました。年々、たまねぎの作付面積が増加している状況から、補助事業を活用した機械導入で機械化一貫体系の体制強化を図っており、大面積をこなせる収穫機械類、大型選別ラインを導入し、生産拡大に取り組みました。



	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
面積	約 6 ha	約 8 ha	約 6 ha

※令和元年度につきましては、台風被害や地域の基盤整備事業等により一時的に減少したものです。



●6次化 玉ねぎでドレッシング

販路拡大の取り組みのなか、加工業者から原料にこだわった商品の開発について協力要請があり、開発にこぎつけました。

ザク切りにされた玉ねぎの食感が良く甘みもあり、とてもおいしいドレッシングに仕上がりました。

これからも様々なかたちで販路拡大に取り組んでまいります。



●担い手支援活動と農業関連資金融資

TACと金融部門の連携による、多様な担い手や農業者を対象とした訪問活動を実施し、農業関連融資による支援等にも取り組みました。

TAC訪問件数	平成29年度	平成30年度	令和元年度
訪問件数	642件	527件	491件

農業関連融資	平成29年度	平成30年度	令和元年度
件数	229件	193件	196件
金額	385,970千円	399,995千円	572,570千円

●令和元年東日本台風被害からの復旧

令和元年10月の東日本台風により、管内では多くの被害を受けました。10月16日から23日にかけて5回にわたり、被害が甚大であった丸森地区へ食料など支援物資の提供を行いました。職員有志による災害ボランティアにも参加いたしました。また、青年部女性部をはじめ、各関連団体や地区外の青年部等からも多くの支援をいただきました。

今後も復旧へ歩みをすすめてまいります。



II. 豊かな地域社会の創造

● 児童の米作り体験 地域ぐるみで

青年部が中心となり行っている活動で、地域の小学校・農業者が一緒になって取り組んでいます。

子どもたちが種から育てた苗を手に、照りつける太陽のもと、豊かな土と水を感じながら田んぼにはいり、田植えを行いました。草刈り等も行ない、収穫を迎えます。

体験をとおして、食料をささえている農業の大切さなどを学ぶとともに、ふるさとの記憶として心にのこる活動をめざして実施しています。



● 地域の活力 子どもたちの全力プレー

地域の子どもたちの健全育成や交流を目的に、少年野球大会を開催しましたが、地域のみなさんの応援を受けた子どもたちの全力プレーに感動し、こちらが元気をもらえました。子どもたちが元気であることが地域の活力につながるのだと、改めて実感しました。



● 快挙 黒ビール最高位 国際品評会

仙南シンケンファクトリーにて醸造されたビールが、アジア最古の国際品評会「インターナショナルビアカップ2019『ブリティッシュエール部門』」においてカテゴリーチャンピオンを受賞しました。

23か国約1000種類の出品のなかの受賞となり、世界に誇れるビールができました。担当者の努力や地域に支えられてきた取り組みが実を結びました。



Ⅲ. 地域を支える J A 経営の確立

● 楽しく“体験”女性大学が開講

女性大学カレッジ輝楽里では、地域の仲間づくりを基本に、「食」と「農」にテーマを置いた「体験型」の活動を実施しました。

年6回程度の講義にて構成されており、野菜収穫・手芸・陶芸・料理・体操・音楽鑑賞など、様々な活動を実施しました。



● 信頼される組織に「七ヶ宿町」と協力協定

七ヶ宿町と高齢者見守りに関する協力協定を締結しました。独居や高齢者のみの世帯数も増加傾向にあり、見守りの必要性が高まっていることから、七ヶ宿町でこれまで取り組んできた「見守りの仕組み」を強化したいとの考えから、三者協定（七ヶ宿町・J Aみやぎ仙南・(株)ジェイエイ仙南サービス）を結ぶことになりました。

地域と一体した取り組みの実施により、地域からいっそう信頼される組織をめざします。



● 文化賞機に友好 「J A ぎふ」と協定締結

岐阜県の J A ぎふと友好 J A 協定を締結しました。

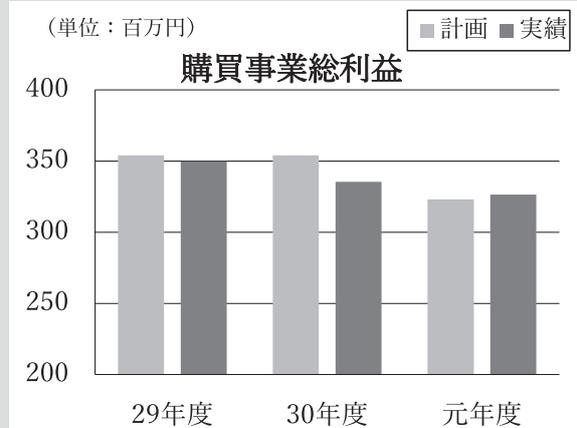
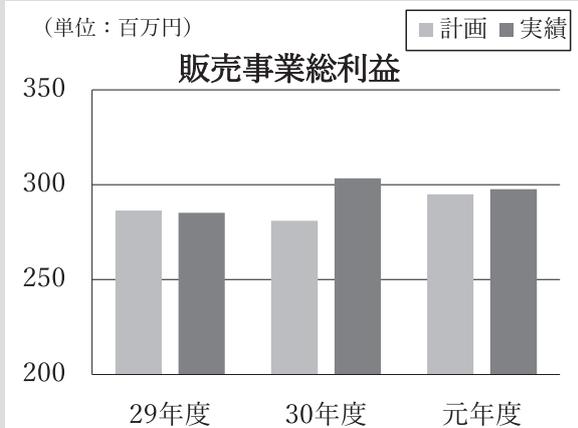
きっかけは、家の光協会が教育文化活動で成果を挙げた J A に贈られる「家の光文化賞」を両 J A が 2019 年 2 月に同時受賞したことによるものです。

情報を共有し、人的交流・物的交流をとおして、両 J A の取り組みを学びあい、切磋琢磨しながら、協同組合活動の強化や、地域活性化などに取り組むことや、災害の際にも助け合うことを確認しました。



第六次中期経営計画〔第六次営農Vプラン〕総合損益実績の推移

I. 営農経済部門

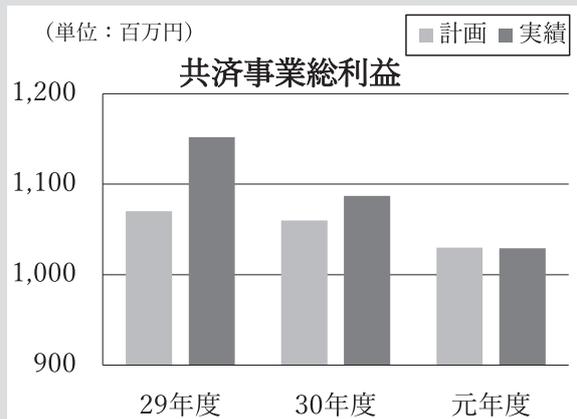
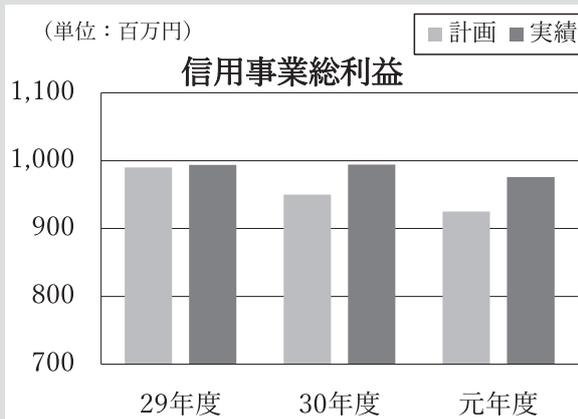


(単位：千円)

販売事業総利益	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
計 画	286,357	280,931	294,914
実 績	285,278	303,347	297,750

購買事業総利益	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
計 画	354,000	354,000	323,000
実 績	349,639	335,493	326,366

II. 金融共済部門

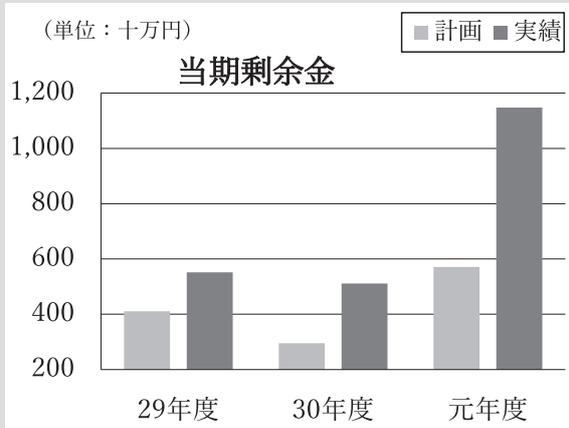
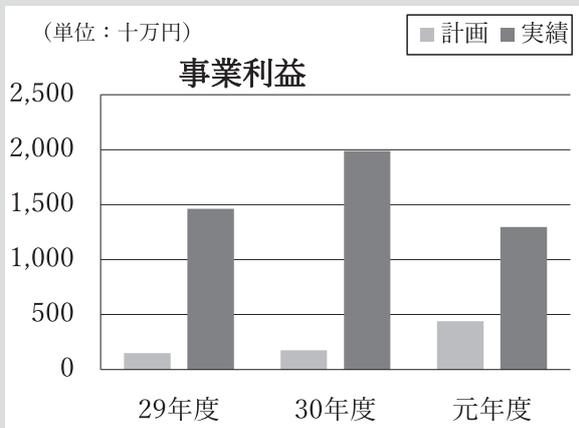
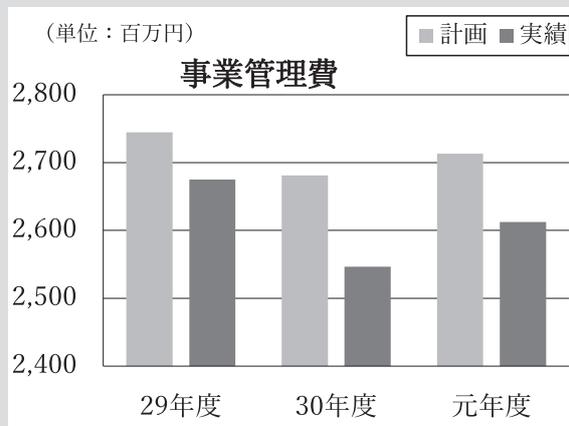
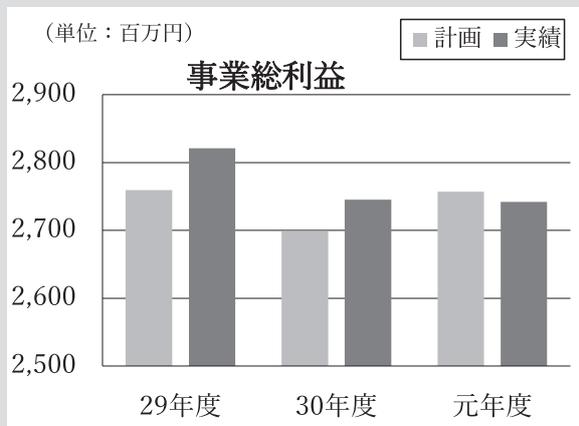


(単位：千円)

信用事業総利益	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
計 画	990,000	950,000	925,000
実 績	993,851	994,394	975,767

共済事業総利益	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
計 画	1,070,000	1,060,000	1,030,000
実 績	1,151,905	1,086,941	1,029,165

Ⅲ. 総合収支



(単位：千円)

事業総利益	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
計 画	2,759,500	2,698,609	2,757,000
実 績	2,821,026	2,745,296	2,742,082

事業管理費	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
計 画	2,744,500	2,680,950	2,712,989
実 績	2,674,831	2,546,399	2,612,478

事業利益	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
計 画	15,000	17,659	44,011
実 績	146,195	198,896	129,604

当期剰余金	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
計 画	41,121	29,486	57,146
実 績	55,101	51,079	114,707